2022年3月13日(日)午後1時30分～　流水堂

祈りと霊(ひ)の科学

棚次正和(京都府立医科大学 名誉教授)

主催:田代三智子

1　祈りとは？

- 祈りに対する様々な誤解

  祈りは願いではない。祈りは念力ではない。祈りは心の中の出来事ではない。

  ×願望成就(我執)　　×念力による引き寄せ　　×世界に影響を与えない

  ※ 西欧語のprayer, prière, Gebet は、「お願いすること」が意味の中核にある。

- 祈りは「生命(いのち)の宣言」である。

  「いのり」の語源　⇒　いのり＝い(生・斎)＋の(宣)り＝神聖・生命の宣言

- 「い」(神聖な生命エネルギー)をめぐる語彙のネットワーク

  「いき(息)」「いのち(命)」「い(癒)ゆ」「いこ(憩)ふ」「いぶき(息吹)」「い(生)きる」「いきお(勢)い」「いつ(稜威・厳)」「いつ(斎)く」「いわ(祝)ふ」「い(忌)む」「い(言)ふ」「いけ(池)」「いね(稲)」 等々。

2　祈りは人の自然本性に由来する行為

- 祈りは自然本性からの行為であるから、鳥が大空を舞い、魚が水中を泳ぐのが、彼らの自然本能であるように、人であれば、誰でも自然本性として祈るのである。

（なぜ祈るのか？　① なぜなしに、自然本性として祈る。

② 「生命の根源」との繋がりを再認・強化するために祈る。）

人は弱い存在、凡夫・罪人だから、神仏に祈るのではない。～に祈る、~~を祈る~~。

神を祈る―「天地のいづれの神を祈らばか愛し母にまた言とはむ」(万葉集　4392)

- 祈りは宗教家(神父・牧師、神主、僧侶など)の専売特許ではなく、全ての人が自然本性から行なうものである。⇨　祈りを万人に解放する。「誰でも祈り人」である。

3　祈るとは「いきいきと生きる」こと

- 祈ることは、神仏にすがることではなく、「生命の根源」との繋がりを再確認(自覚)しながら、その根源からの生命エネルギーのひびきに祈りの言葉を乗せて、高らかに愛・調和・感謝を宣り出すことである。それは愛・調和・感謝の表現であり、愛・調和・感謝の創造である。

息をする(＝生きる)ことが自覚的に深められて、祈りとなる。

- 短い定型の祈りの言葉がベストである。その理由は、思考の経済(あれこれ考える必要がない)、咄嗟に出てくる、反復しやすい、習慣化しやすい等々。大宇宙や小宇宙を象徴する言葉、真理を凝縮した言葉が相応しい。

※ 南無阿弥陀仏（阿弥陀仏に帰命する）、キリエ・エレイソン（主よ、憐れみたまえ）、

ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に神なし）、とほかみゑみため、等。

また、オーム（AUM）、す、等の根源語を唱える。

祈りは手段ではなく、目的の実現である

- 「祈り」に対する誤解の一つに、何か目的を達成するための手段と見なす捉え方がある。しかし、実は、祈りは目的達成のための手段ではなく、目的それ自体の端的な実現・成就である。たとえば、「平和の祈り」は、平和をもたらすための手段として祈るのではなく、その祈りが平和自体の実現である。また、「感謝の祈り」であれば、感謝へと導くための祈りではなく、その祈りが端的に感謝そのものの成就である。そうした祈りが、平和や感謝という目的が成就した姿なのである。したがって、「平和の祈り」や「感謝の祈り」が行なわれる場合、その都度その都度、平和や感謝が現われて実現しているのである。

４　祈りの実践

1. いつ(When)？　定時の祈り → いつでも、瞬間の祈り

2. どこで(Where)？　清らかな場所 → どこでも

3. 誰が(Who)？　あなた（真我）が → 誰でも

4. いかに(How)？　定型の祈りの言葉で → どのようにでも
   姿勢を正して → どのような姿勢でも

5. 何を(What)？　平和、感謝（報恩）、賛美、歓喜など

日々の生活の中での祈り

◎早朝、朝日に向かって「平和の祈り」をする。
体内時計をリセットし、一日をいきいきと生きる
ための生命エネルギーを充填する。

◎就寝前にベッドや布団の中で「感謝の 祈り」をする。
（終わりよければ全てよし）

◎生活の場面・場面で「瞬間の祈り」を行なう。
短い定型の祈りの言葉がよい。祈りの中で生活を送る。

５　霊(ひ)の科学、「霊(ひ)」とは？

- 霊（ひ）とは何か？　霊（ひ）は、人の存在の核心をなすもの、全宇宙の根源にあるもの。
  実在（←→現象）、全一（←→部分）、無形（←→有形）、時空間を超えたもの、
  非局在性（←→局在性）。
  人の存在構造は、「ひ（霊）・たま（魂・心）・からだ（身・体）」という三重の重層構造。
  「ひ」は不生不滅の実在、「たま」「からだ」は生滅する現象。
  絶対・無限・永遠　　　　　　相対・有限・時
- 全宇宙は、この「霊(ひ)」が自発自展したもの。
- 意識(内界)と物質(外界)の関係は?　⇒　意識的内界が物質的外界へ投影されているという仮説。
  意識的内界は人それぞれ固有であるのに対して、物質的外界は人々に共通であると思われている。
  それは、内界の構成原理が万人に共通しており、その原理がそのまま外界へ投影されるためか?

5-1 「霊（ひ）」の科学をどう考えるか

- まず、「科学」（広く学問）については、①誰が（認識主体）、②何を（認識対象）、③いかにして（認識方法）知るか、ということが問題となる。近現代の自然科学においては、①は自然科学者、②は物質・物体、③は分析（と総合）であり、その優勢な思想は、「要素還元論」と「機械論的自然観」である。前者は全体は部分の総和であると見なすものであり、後者は特定の時空間に生起する事象を因果の系列の中で過去が現在を規定するという視点から捉えるものである。
- しかし、②に関しては、意識（精神）を取り込んだ見方が可能であり、また③に関しても、全体は部分の総和以上であると見る「全体論」や、宇宙の諸事象の中に霊魂や意志等の働きを見て未来が現在を規定するという視点に立つ「目的論的、生気論的自然観」がありうる。
- 「霊（ひ）の科学」は、近現代科学の不備を補うものとして、以下のような視点に立つものである。

意識（精神）と物質
超意識（霊性）

分析と総合
直観（観照）

5-2 「ひ（霊）」の科学をどう考えるか

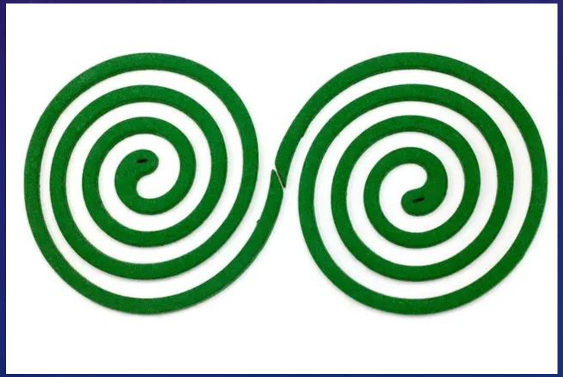
- 無形の実在である「ひ」が有形の現象となる過程を考えてみたい。

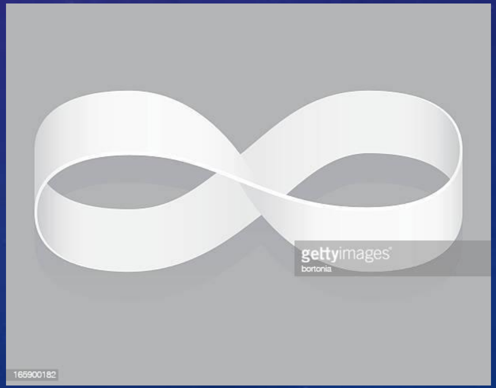
無形なるものが、いかにして有形となったか?

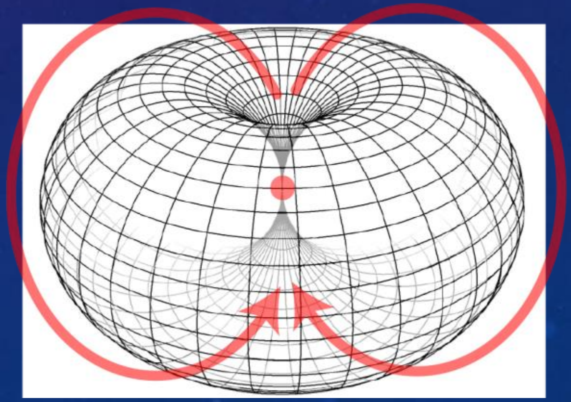
その展開の仕方の一例。

◆二次元平面　点（中心）→ 円転（遠心力＋求心力）→ 渦巻き（左回り右回り）→　二重円 → 三角形

◆三次元空間　中心軸 →　回転 ・ 渦巻き（メビウスの環）・螺旋運動 → トーラス・球体 → 多面体







霊（ひ）の科学：数霊（かずたま）、形霊（かたたま）、言霊（ことたま）

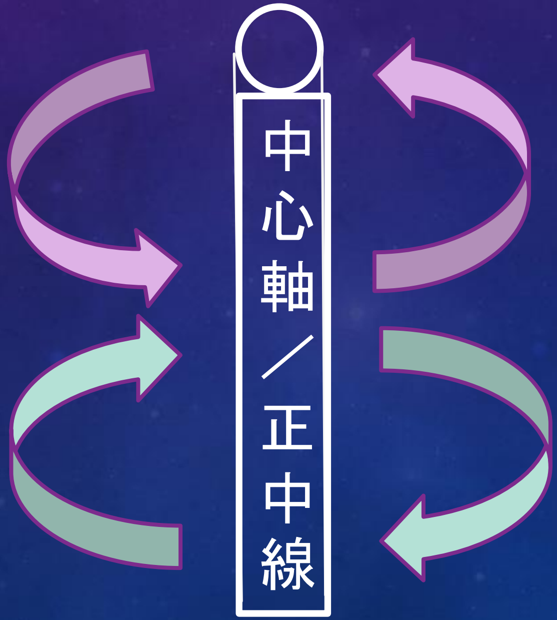
◎数霊、形霊、言霊の関係

「観念」が具体化する、衣を纏う
（形相）　＋　（質料）
　無形の形　　有形の形

数霊—固有振動数、万物は数である
形霊—神聖幾何学、フラワー･オブ･ライフ
言霊—言葉による世界創造＞意思伝達

6 円・球体・トーラス(円環体)からの造形

- 「円・球体」が母胎となって、全ての形態が生み出されたと仮定してみる。　【自然の造形原理】
- 「円・球体」が母胎となって、全ての運動形態が生み出されたと仮定してみる。【人間の運動形態】



ヴェシカ・パイシス（魚の浮き袋）

トーラス(TORUS)理論

- トーラス(Torus)理論――中央に穴のあるトーラス(円環体・ドーナツ)状の磁場があり、万物のエネルギーはトーラス状に循環するという理論。上から入って来たエネルギーは下降して、円を描くようにドーナツの側面を周回して中央に戻り、逆に下から入って来たエネルギーは上昇して、同様にドーナツの側面を周回して中央に戻る。この逆方法の二重の循環が繰り返される。
- 人体、DNAの二重螺旋、樹木、りんご、台風・竜巻、磁石の磁場、地球、銀河宇宙、

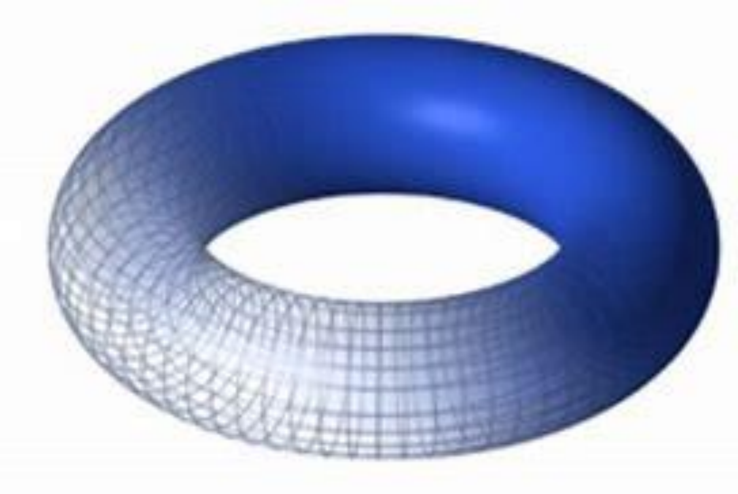
- トーラスTHRIVE(日本語版)動画

(Official Movie) THRIVE: What On Earth Will It Take? - YouTube

【2020年度版】THRIVE II 予告動画 - 日本語・簡易字幕 - YouTube

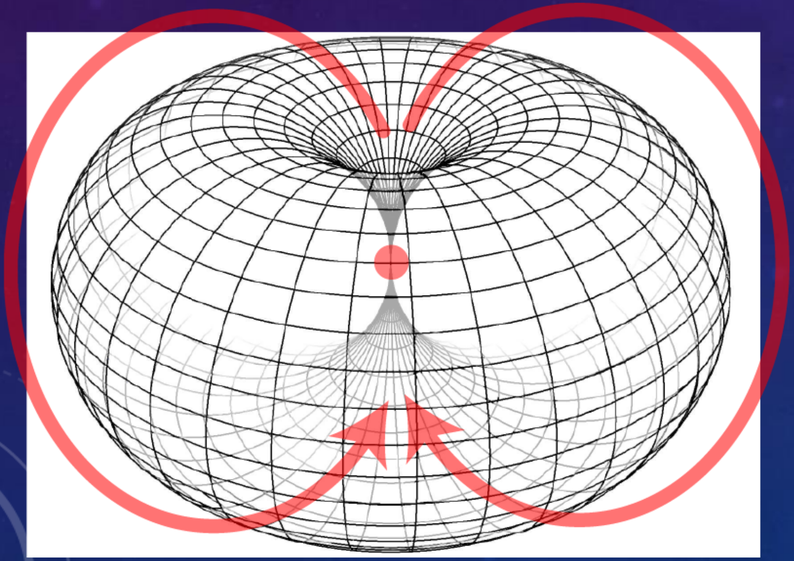
Kimberly Carter Gamble, Foster Gamble

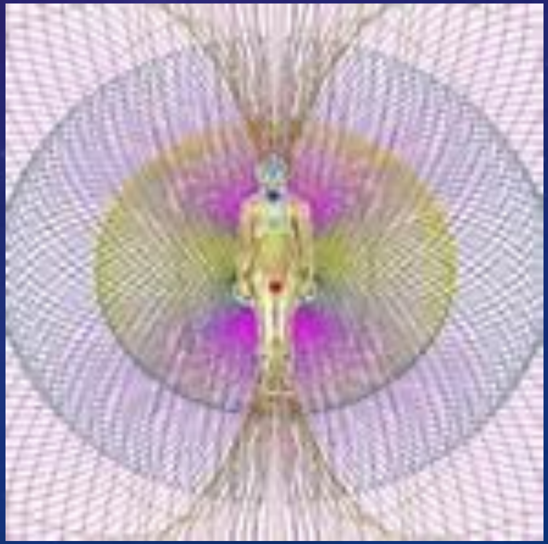
トーラス（円環体）



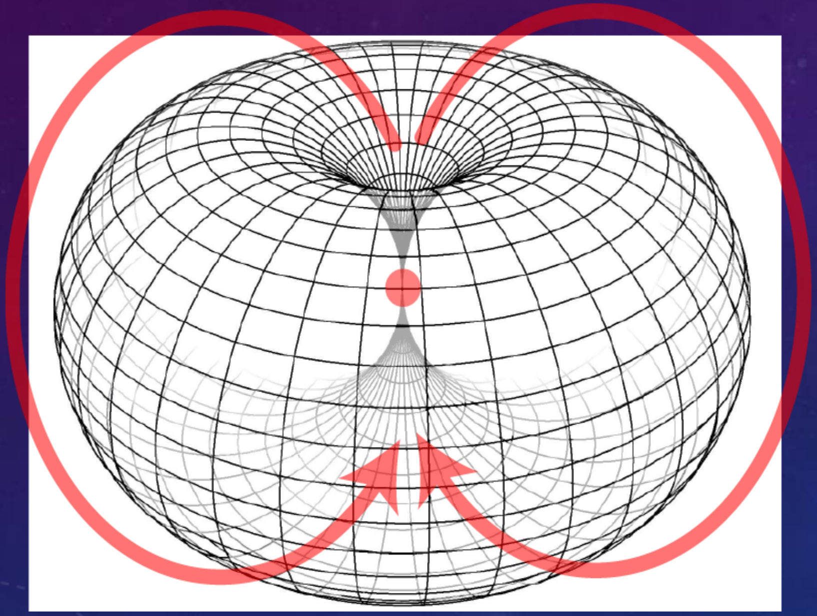
トーラスの体積

円の面積（πr^2）×円の中心が描く円周の長さ［２π（r＋?）］





「水」の字は、トーラス（円環体）を示している



7 無形から有形が生まれること

- 五蘊（色受想行識）と五大（地水火風空）

(spiritual)

識（認識・了別）	空風火水地	causal body	元因体
行（潜在的形成力、意志）	空風火水地	mental body	霊体/識心体
想（想念・感情）	空風火水地	astral body	幽体/感情体
受（感受、快・不快）	空風火水地	etheric body	複体/生命体
色（感覚 ← 形あるもの）	空風火水地	physical body	物質体

複体/生命体・物質体 ｝肉体

無形の形

観念(形相) ←→ 概念

射影空間 → エーテル空間
〈形態形成場〉
エーテル界の エレメント

有形の形 具体化、物質的外化

８ 日本文化における修道の形・型

- 修道とは、心と身体を模範・型木となる理想形に合せながら、最終的にはそれを超えて、生命の根源からの響きを自由自在に形として表現することを修める道。
- 神道、武道、武士道、歌道、茶道、華道、書道、画道、香道、能楽、医道など。

- 主宰者　主　ー世界創造（対象C）＝自己表現、生き方、作品　＜天＞

主体　ー道具（対象B）　〈心技体の統一〉の修道　＜人＞

主観　ー身体（対象A）　〈心身の統一〉の修道　＜地＞

その修道形態に円運動・円転やトーラスの運動が関わっていると想定される。

御清聴ありがとうございました